地域に応えたい

公立大学法人 岩手県立大学長
谷口 誠

わが国の大学教育や研究を取り巻く閉塞的状況の打開に迫る問題提起を、ここ岩手の地から発信したいという高邁な精神の下、地域に根ざした実学・実践の開かれた教育・研究活動を建学の理念とする岩手県立大学が誕生したのは、1998年4月のことであった。

爾来、本学にとり地域との関わりを模索することは、教育研究の拠って立つ理念の根幹を成す一大テーマであり続けている。

2008年4月に開学10周年を迎えた本学は、建学の理念を踏まえ、新たな大学の方向性を打ち出した。すなわち、「豊かな教養の修得と人間尊重の精神の涵養」「学際的領域を重視した特色ある教育・研究」「実学・実践重視の教育・研究」「地域社会への貢献」「国際社会への貢献」の5つである。これらは、これまでの10年を総括し、さらなる未来へ向かう大学としての明確なビジョンであり、真に地域に貢献できる大学でありたいと願う強い意思による。

もとより大学とは教えられたことを覚える場ではない。学ぶとは何かを学び、自分自身の内に学びのテーマを持ち、教員と学生が共に学問を究めるために学びあう場である。学問することの手法と方向性は、教員と学生との魂の交感によって育まれていくのである。先達に学び、自らの感性を信じ、自身の目標を見定め、それに向かって人生を切り開いていく場として、大学はある。

さて、ここで問われなければならないのは、地域に根ざし、開かれた実学・実践の教育・研究活動とはいかなるものであるか、ということである。実は、これがきわめて明瞭な形で結実したのが本誌『IPUムック2008 岩手県立大学研究成果集』である。開学10周年記念事業の一環として、地域の期待に応える本学の研究成果を広く伝えたいとの思いから刊行したものである。誌面に登場している本学教員と研究成果をご覧になればご理解いただけると思うが、地域とともにありながら見つめる視線は常に世界を向いている。換言すれば、グローバルな発想で着実に地域に根ざした研究が進められて